

ISM メーリングリスト ご注意ください

1. 添付ファイル・プレーンテキストについて.....	1
1.1 Eudora Pro.....	1
1.2 Outlook Express.....	2
1.3 Netscape Communicator.....	3
1.3.1 バージョン 4.0 以降.....	3
1.3.2 バージョン 3.0.....	5
2. 機種依存文字・半角カタカナについて.....	5
2.0 コンピュータと文字コード.....	6
2.1 機種依存文字.....	8
2.1.1 機種依存文字とは？.....	8
2.1.2 全く問題なく使ってもいい記号.....	8
2.1.3 ISM メーリングリストでは使ってもいい記号.....	8
2.1.4 注意が必要な記号.....	10
2.1.5 使ってはいけない記号.....	12
2.2 半角カタカナ.....	13
3. 独立した発言とコメント.....	13
4. メーラの返信機能.....	14

1. 添付ファイル・プレーンテキストについて

メーラ（インターネットメールを送受信するためのソフトウェア）の中には、書式が付いたメール——HTML メールとかリッチテキスト (Rich Text) とかスタイル化文書とか呼ばれています——とか、添付ファイルが付いたメールとかを送ることができるものがあります。これらはなかなか便利なものですが、必ずしも参加者全員がそのようなメールを、送信者が意図したとおりに読むことができるとは限りません。ですから、止むを得ない事情がある場合は別として、なるべく添付ファイルなしのメールを、書式なしのテキスト (*text/plain*) で、送るようにしてください。

text/plain メールについては、特にお使いのメーラの設定にご注意ください。

1.1 Eudora Pro

Eudora Pro（というメーラ）のバージョン 3.0 以降をお使いの方は次の点を確認してください。

1. メニューバー上で“ツール(T)”を選びます。そうするとメニューがプルダウンされます。
2. プルダウンされたメニューの中から“オプション(O)...”を選びます。そうすると、タイトルバーに“オプション”と書かれたウィンドウが開きます。このウィンドウの左半分に“分類”と書かれたリストボックスがあります。
3. “分類”リストボックスの中から“スタイル化文章”を選びます。そうすると、このウィンドウの右半分に“メッセージ送信時にスタイルを解除”と書かれたチェックボックスが現れます。
4. もしこのチェックボックスにチェックが入っていれば——つまり“メッセージ送信時にスタイル

を解除”という文の左にある四角形の箱にチェックマークが書かれているならば——、何も問題はありません。もしこのチェックボックスにチェックが入っていなければ——つまりチェックマークが書かれていなく、白いままであるならば——、できればチェックを入れるようにしてください（四角形の箱の上でマウスをクリックすればチェックが入ります）。そうすれば、今後はメール送信時に、書式なしのテキスト（text/plain）が自動的に送信されるようになります。

5. “OK” と書かれたプッシュボタンをクリックしてください。

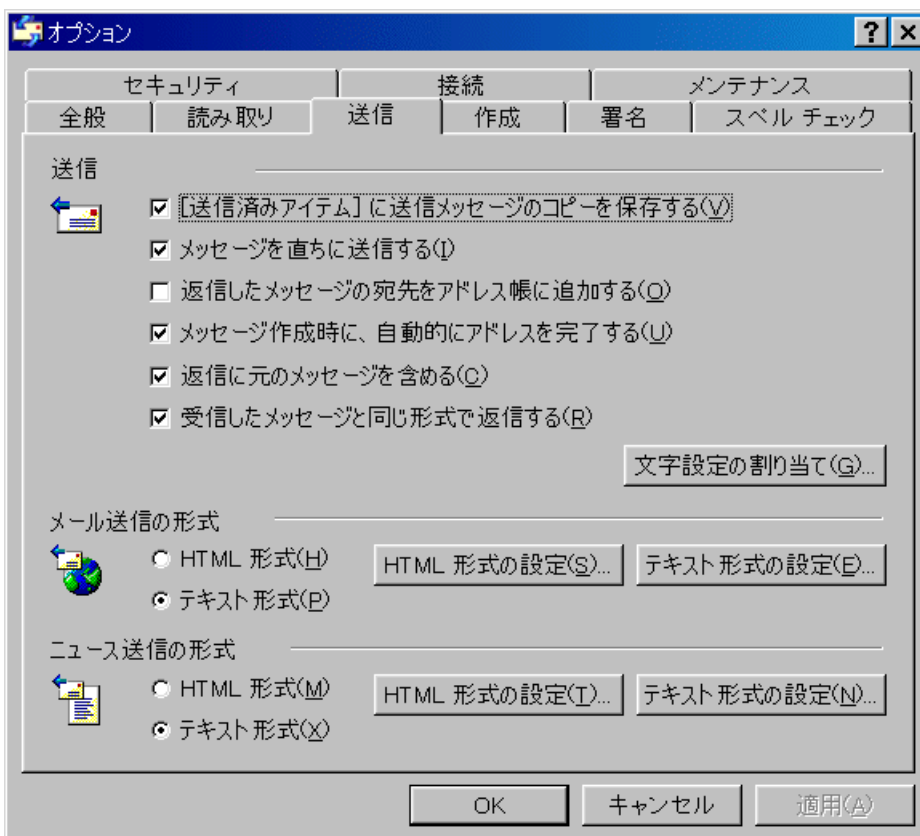
1.2 Outlook Express

Outlook Express（というメール）のバージョン 4.0 以降をお使いの方は次の点を確認してください。

1. メニューバー上で“ツール(T)”を選びます。そうするとメニューがプルダウンされます。



2. プルダウンされたメニューの中から“オプション(O)...”を選びます。そうすると、タイトルバーに“オプション”と書かれたウィンドウが開きます。このウィンドウの上部に“送信”と書かれたページタブがあります。
3. “送信”と書かれたページタブをクリックします。そうすると、“メール送信の形式”と書かれたラジオボタングループがあります。



4. このラジオボタングループに含まれているラジオボタンの中で“テキスト形式(P)”の方が選択されているならば、何も問題はありません。もし“HTML形式(H)”の方が選択されているならば、“テキスト形式(P)”の方を選択してください。
5. “OK”と書かれたプッシュボタンをクリックしてください。

1.3 Netscape Communicator

1.3.1 バージョン 4.0 以降

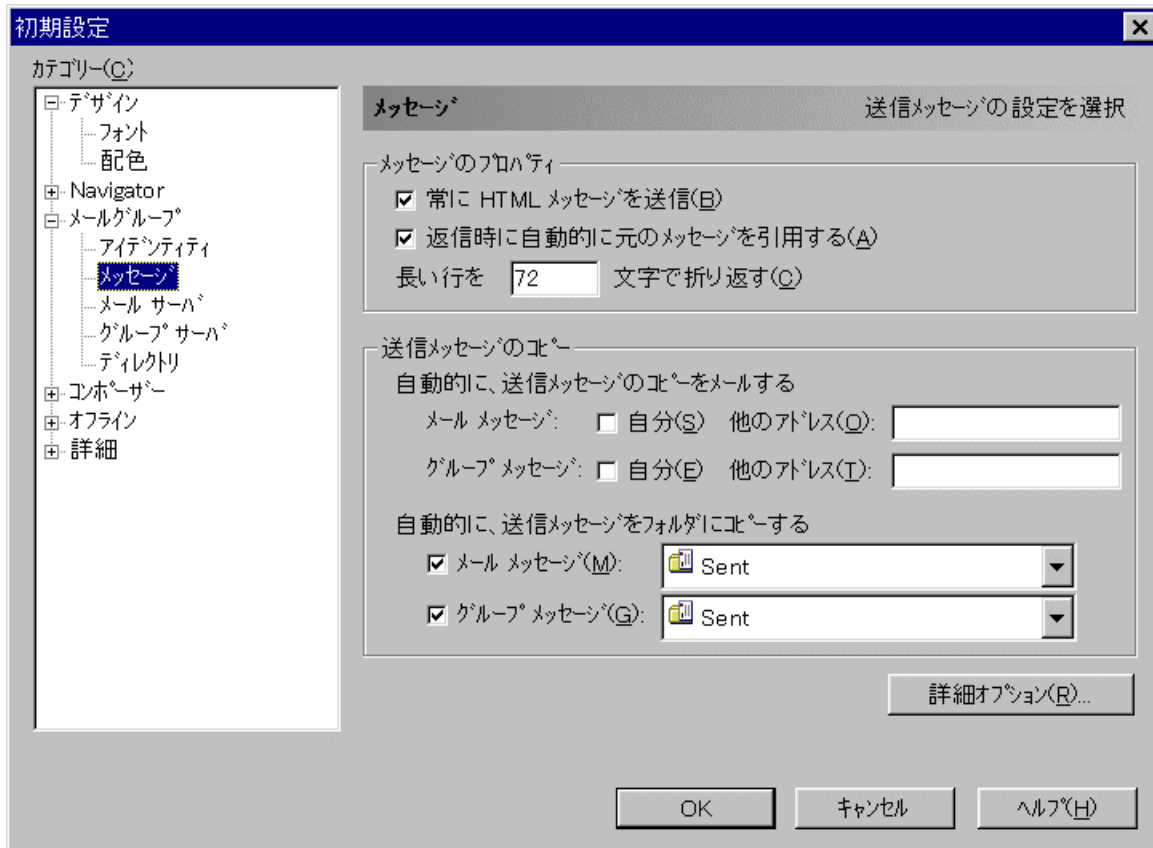
Netscape Communicator のバージョン 4.0 以降に付属している Messenger (というメーラ) をお使いの方は次の点を確認してください。

1. メニューバー上で“ツール(T)”を選びます。そうするとメニューがプルダウンされます。

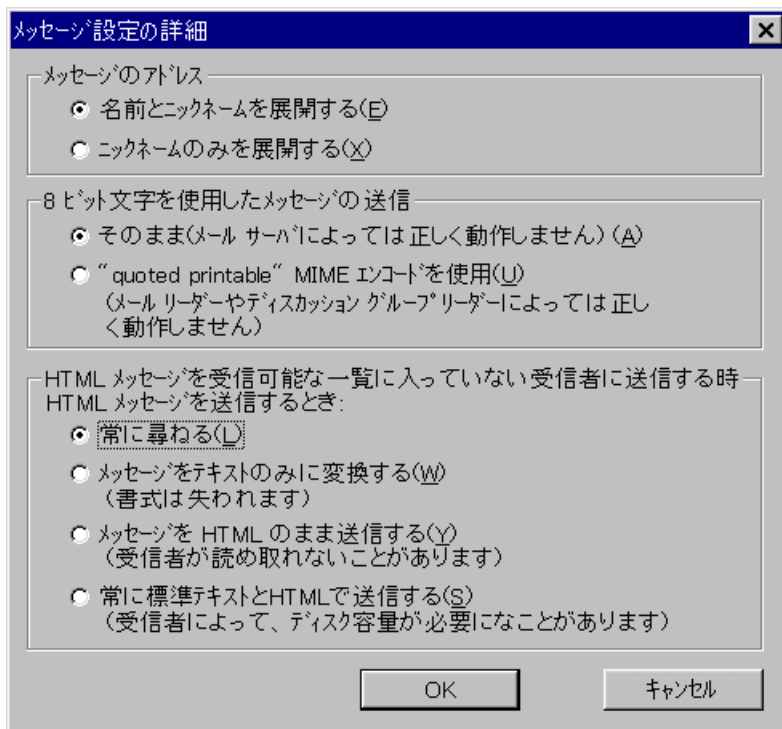


2. プルダウンされたメニューの中から“設定(S)...”を選びます。そうすると、タイトルバーに“初期設定”と書かれたウィンドウが開きます。このウィンドウの左半分には“カテゴリー”と書かれたツリー表示ボックスがあります。
3. “カテゴリー” ツリー表示ボックスの中から先ず“メールグループ”を選び、次にその中から“メ

メッセージ”を選びます。そうすると、このウィンドウの右半分に“詳細オプション(R)”と書かれたプッシュボタンが現れます。



4. “詳細オプション(R)”をクリックします。そうすると、タイトルバーに“メッセージ設定の詳細”と書かれたウィンドウが開きます。このウィンドウの下半分に“HTML メッセージを受信可能な一覧に入っていない受信者に送信する時”と書かれたラジオボタングループがあります。
5. もしこのグループに含まれているラジオボタンの中で“常に尋ねる(L)”あるいは“メッセージをテキストのみに変換する(W)”が選択されているならば、何も問題はありません。もしこれらのラジオボタンが選択されていないならば、できれば選択するようにしてください。



6. “OK” と書かれたプッシュボタンをクリックしてください。

1.3.2 バージョン 3.0

また、Netscape Communicator のバージョン 3.0 に付属している Messenger (というメーラ) をお使いの方は次の点を確認してください。

1. メニューバー上で“編集(E)”を選びます。そうするとメニューがプルダウンされます。
2. プルダウンされたメニューの中から“設定(S)...”を選びます。そうすると、タイトルバーに“設定”と書かれたウィンドウが開きます。このウィンドウの左半分には“カテゴリ”と書かれたツリー表示ボックスがあります。
3. “カテゴリ” ツリー表示ボックスの中から先ず“メールとグループ”を選び、次にその中から“メッセージ”を選びます。そうすると、このウィンドウの右半分には“メッセージのプロパティ”と書かれたグループが現れます。このグループの中には、“常に HTML メッセージを送信”と書かれたチェックボックスがあります。
4. もしこのチェックボックスがチェックされていないならば、何も問題はありません。もしこのチェックボックスがチェックされているならば、このチェックボックスをクリックしてチェックを外してください。
5. “OK” と書かれたプッシュボタンをクリックしてください。

2. 機種依存文字・半角カタカナについて

機種依存文字、半角カタカナは絶対に使わないようにしてください。

この項目を理解するためには、コンピュータが日本語を取り扱う仕組みについての最低限の知識が必要になります。何を言っているのか、よく解らない方は、取り敢えず、表 8、表 10、表 11、表 12、表 13、表 14 だけをご覧ください。使ってはいけない文字をご確認ください。

2.0 コンピュータと文字コード

インターネットメールの中であなたが書いた文字はコンピュータによって処理されます。コンピュータはとってお馬鹿さんなので、0と1しか解りません。ところが、われわれが使っている文字には0と1以外にいろいろなものがあります。

そこで、コンピュータは様々なキャラクタに番号を振って、文字を識別するのです。例えば、Aに000番、Bに001番、Cに010番、Dに011番という番号(コード)を振るわけです¹⁾。コードに1と0しかないのは、コンピュータが1と0しか解らないからです。つまり、ここでは3桁の2進数(3bit)で文字を定義しているわけです。3桁の2進数では $2^3=8$ 個の文字を定義することができますから、A~Dと同じようにして、E~Hの文字にも番号を振ってみましょう。そうすると、AからHまでの8個の文字(キャラクタ)に一意的番号(コード)が割り当てられたことになります。――

文字(キャラクタ)	A	B	C	D	E	F	G	H
番号(コード)	000	001	010	011	100	101	110	111

こうして、例えば、FACEという単語を、101(=F)、000(=A)、010(=C)、100(=E)という四つの番号(コード)の組み合わせで表現することができます。すなわち、――

FACE=101-000-010-100

です(ここでは、“-”を引き算の記号としてではなく、区切りの記号として使っています)。

特定のキャラクタ(文字)に割り当てられたこの番号(コード)を文字コードと呼びます。とは言っても、みんな好き勝手に番号を振ってしまえば互いにデータのやり取りができません。X社のコンピュータではAに000番という番号をふっているのにY社のコンピュータではAに111番という番号を振っているのは、不便で仕方がありません。そこで、コンピュータが盛んだったアメリカで公的機関の公共的規格として文字コードを制定しました。これがASCIIコードと呼ばれるものです。

PC(含Mac)互換のキーボードをお使いの方は、IMEとか仮名漢字変換とかFEPとかのような日本語入力ソフトを起動せずに、ワープロとかエディタ上で手当たり次第キーを打っててください。ひらがなとかカタカナとか漢字とかは出てきませんよね。出てくるのは大文字・小文字のアルファベットと数字と若干の記号くらいのものですよね。こうして入力することができる文字がASCIIコードです。

ASCIIコードは7bit(7桁の2進数――例えば0111010)で定義されています。10進数に直すと、0から127までの128個の文字がASCIIコードで定義されているわけです²⁾。英語圏では取り敢えずこれで十分でした。アメリカ人ならば、26文字のアルファベット(大文字と小文字をあわせて52文字)と0~9までの数字、その他少々の記号(ピリオドとかカンマとかコロンのか)でなんとか事足ります。

ところが、日本人はひらがなとかカタカナとか漢字とかも使わなければならないので大変です。コンピュータで日本語を扱う時には128個の文字では話になりません。8bit(8桁の2進数=1byte――例えば01110101)に定義域を拡張($128 \times 2 = 256$ 個)すればカタカナくらいは扱えるようになりますが、他の文字コードを定義することはできません。そこで、ひらがな・(全角)カタカナ・漢字・(全角)記号用に1byte領域を二つにつけるしかないわけです(16bit=2byte)。とは言っても、これまでのデータとの互換性、他のデータとの互換性のためには、1byte領域に含まれている文字も使わなければならないわけですから、その場合に、1byte領域と2byte領域とをどうにかして接合しなければなりません。

1) ここでは例示のために3桁の2進数を用いています。実際には、3桁の2進数では8個の文字(キャラクタ)しか定義することができませんので、実用的ではありません。

2) この文字の中にはタブ文字とか改行文字とかエスケープ文字とかのような制御文字が含まれています。

ん。JIS は非常に単純な方法¹⁾で ASCII コードと日本特有のコードと切り替えるようにしたわけです。これが JIS コードです。

けれども、コンピュータの世界は公共性なき無法地帯です。そこで、JIS コード（旧 JIS コード）をベースにしながらもいろいろな文字コードが乱立することになりました。Shift-JIS コードとか日本語 EUC とかのように、そもそも JIS コードとは全く別のやり方で 1byte 領域と 2byte 領域とを接合するものも出てきました。Shift-JIS は現在、Windows でデータを外部的に交換する際の標準になっています。

その上、JIS で定義されていない独自の漢字・記号を特定の領域に押し込むというのをしました。これでは、そのような独自の漢字・記号が使えるコンピュータと使えないコンピュータとが出てきてしまいます。後で見ると、これが**機種依存文字**というやつです。

また、これまでのデータあるいは他のデータとの互換性を考慮した結果として、アルファベット、数字、カタカナは 2 箇所まで二重に——つまり 1byte 領域と 2byte 領域とで——定義されることになりました。その結果として、現在、われわれはアルファベット、数字、カタカナについては、全角文字と半角文字とを使うことになっています。1byte 領域に定義された文字（キャラクタ）について言うと、アルファベットと数字とはもともと ASCII で定義されていた領域（7bit 領域＝128 個のキャラクタしか使えない領域）をそのまま継承したのですが、カタカナについては上述の 8bit 領域（7bit 領域の 128 個のキャラクタに追加される、もう 128 個のキャラクタが使える領域）に定義されています。後で見ると、これが**半角カタカナ**というやつです²⁾。

この項目では、JIS、Shift-JIS、区点という三つのコードが出てきます。実際には区点は JIS と同じものであって、区と点とを使い 4 桁の 10 進数でコードを表したものです³⁾。文字コードの数字においては、このように区点コードは普通の数字なのですが、JIS コードと Shift-JIS コードでは 0～9 までの数字の他に A～F のアルファベットが混じっています。非常にややこしいことに、JIS コードや Shift-JIS コードは 4 桁の 16 進数で記述されています。数字は 0～9 までの 10 個しかありませんから、16 進数の各桁を記述するために数字以外のアルファベットを 6 個入れているわけです⁴⁾。

-
- 1) 技術的な問題に詳しい方への注。要するにエスケープシーケンスを用いるわけです。

メールのソースを解読することができる方はメールのソースをご覧ください。日本語が用いられているメールでは、いわゆる全角文字といわゆる半角文字とが切り替わるところで、エスケープ文字が用いられているのがわかります。

エスケープ文字（ASCII の 1B）の後に“B”が来ると、ASCII 文字に切り替わります。“\$B”が来ると、JIS X 0208 に切り替わります（その他にも、エスケープ文字の後に“J”、“\$@”が来る場合あるのですが、ここでは省略します）。

なお、日本語が用いられている論理行の行頭と行末とにエスケープ文字が使われているのは、改行文字が ASCII 文字だからです。要するに、行頭の場合には改行文字（ASCII）からいわゆる全角文字への切り換えが生じ、行末の場合にはいわゆる全角文字から改行文字（ASCII）への切り換えが生じているわけです。

- 2) 技術的には、逆に 1byte 領域に定義されているアルファベット・数字・カタカナを全角で表示・出力してもいいのです。問題はどの領域で定義されているのかということであって、文字の幅ではありません。けれども、現状の日本のコンピュータについては、1byte 領域で定義されている文字（キャラクタ）の幅はエディタとかメーラとかでは 2byte 領域で定義されている文字の幅の半分に見えるようになっています。そこで、技術的に不正確であっても、以下では、全角・半角という視覚的に解りやすい用語を用いることにします。
- 3) この 4 桁の 10 進数を 2 桁ごとに分解します。上 2 桁が「区」、下 2 桁が「点」です。例えば“◎”は区点コードでは 0193 です。このことは、“◎”は 01 区の 93 点にあるということを意味します。
- 4) つまり、1 つの桁を表現するのに必要な 16 個の数字を (0, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, A, B, C, D, E, F) で表現しているわけです。例えば、A は 10, F は 15 を表すわけです。

Windows をお使いの方は、文字コード表を起ち上げてみてください¹⁾。日本語フォントを選択して“◎”をクリックしてみてください。右下の“文字コード”と書かれた領域に“0x819d”という意味不明な数字が出てくるはずですが、これが Shift-JIS コードです。“0x”というのは無視してください（16進数であることを表す記号なのです）。以下では、Shift-JIS コードが出てきた時には、“0x”を除いたこの数字を確認するようにしてください。

2.1 機種依存文字

2.1.1 機種依存文字とは？

機種依存文字とは、JIS (JIS X 0208=新 JIS 規格) で定義されておらず、従って特定の機種のコンピュータでしか正しく表示されていないような文字のことです。例えば、Mac ではきちんと表示される文字が Windows マシンではきちんと表示されないということがあるのです。メーリングリストをご覧になる方の環境は様々です。そこで、ワープロソフトを使っている場合には何も問題はないのですが、メーリングリストでメールを送信する場合には問題が生じます。

一般的に言うと、アルファベット、数字、ひらがな、(全角)カタカナ、漢字は機種依存文字ではありません²⁾。問題が出てくるのは、全角記号を使う場合です。

2.1.2 全く問題なく使ってもいい記号

以下の記号は使っても大丈夫です。

表 1 問題なく使ってもいい記号 (JIS の 2122~222E) 【◎】

、	。	、	・	・	：	；	？	！	°	°	-	-	-	~
—	—	、	ゞ	ゞ	ゞ	〃	全	々	ゞ	○	—	—	-	/
\	~			…	..	‘	’	“	”	()	[]	[
]	{ }	< >	《 》	「 」	『 』	【 】	+	-						
±	×	÷	=	≠	<	>	≤	≥	∞	∴	♂	♀	°	’
”	℃	¥	\$	¢	£	%	#	&	*	@	§	☆	★	○
●	◎	◇	◆	□	■	△	▲	▽	▼	※	〒	→	←	↑
↓	≡													

2.1.3 ISM メーリングリストでは使ってもいい記号

その他の記号の中でも、JIS X 0208 (新 JIS 規格) で定められているものは総て、ここで定義しているような機種依存文字ではありません。従って総て、ISM メーリングリストで使っても OK です (但

1) 環境によって、若干違うとは思いますが、Windows95/98 ユーザの方は、“スタート”ボタンをクリックして、“プログラム(P)” / “アクセサリ” / “システムツール”を順々にクリックしていくと、“文字コード表”がメニューに現れるはずですが。

もし“文字コード表”がメニューに現れなければ、“スタート”ボタンをクリックして、“ファイル名を指定して実行”をクリックしてみてください。そうすると、“ファイル名を指定して実行”ウィンドウが開きますので、“名前(O):”というタイトルがついたテキストボックスに、C:\Windows\Charmap.exe と打ち込んで、“OK”ボタンをクリックしてください。

2) 正確に言うと、漢字については大部分ということになります。と言うのも、現在、PC で使われている漢字の一部分は機種依存文字だからです。けれども、そのような漢字は難しい漢字だったり、異体字だったり、いずれにせよ、あまり使用頻度が高くない漢字ですから、ここでは度外視します。

し、半角カタカナ¹⁾を除きます——後述)。

2.1.3.1 罫線文字 (いわゆる新 JIS 罫線)

罫線文字は線を縦方向・横方向に組み合わせて作図するための文字です。

表 2 罫線文字 (JIS の 2821 から 2840 まで) 【○】

—		┌	┐	└	┘	├	┤	┬	┴	┼	┼
—		┌	┐	└	┘	├	┤	┬	┴	┼	┼
┌	┐	└	┘	├	┤	┬	┴	┼	┼		

なお、罫線文字の“—” (JIS の 2821) は、全角ダッシュ (ダッシュ) ——つまり“—” (JIS の 213D) ——とは別の文字です。同様にまた、罫線文字の“|” (JIS の 2822) は、全角の縦線——つまり“|” (JIS の 2143) ——とは別の文字です。

2.1.3.2 数学文字 (の一部)

これについては、以下の「2.1.4 注意が必要な記号」をご覧ください。

2.1.3.3 ギリシャ文字

ギリシャ文字はギリシャ語、数式などで使う文字です。

表 3 ギリシャ文字 (JIS の 2621 から 2658 まで) 【○】

A	B	Γ	Δ	E	Z	H	Θ	I	K	Λ	M	N	Ξ	O	Π	P	Σ	T	Υ
Φ	X	Ψ	Ω	α	β	γ	δ	ε	ζ	η	θ	ι	κ	λ	μ	ν	ξ	ο	π
ρ	σ	τ	υ	φ	χ	ψ	ω												

なお、ギリシャ文字の中には全角アルファベットと字形がよく似たものもありますが、全く別の文字です。例えば、ギリシャ語の大文字のアルファを意味する“A” (JIS の 2621) は、全角アルファベットの大文字のエー——つまり“A” (JIS の 2341) ——とは別の文字です。

2.1.3.4 キリル文字

キリル文字はロシア語などで使われている文字です。

表 4 キリル文字 (JIS の 2721 から 2771 まで) 【○】

A	Б	В	Г	Д	Е	Ё	Ж	З
И	Й	К	Л	М	Н	О	П	Р
С	Т	У	Ф	Х	Ц	Ч	Ш	Щ
Ъ	Ы	Ь	Э	Ю	Я	а	б	в
г	д	е	ё	ж	з	и	й	к
л	м	н	о	п	р	с	т	у
ф	х	ц	ч	ш	щ	ъ	ы	ь
э	ю	я						

1) 技術的な問題に詳しい方への注。正確には、JIS X 0201 (1969 年) で承認された 1byte の ANK (Alphabet Numeric Katakana) 文字の中のカタカナコードをいまだに使っているわけです。しかしまた、JIS X 0208 (1983 年) はいわゆる全角文字に相当するキャラクタセットを定めた規格であって、いわゆる半角文字に相当するキャラクタセットを定めた規格である JIS X 0201 とセットで使うことが大前提でした。

いずれにしても、いわゆる半角カタカナが JIS によってオーソライズされているということには変わりありません。従って、ここでの定義では、いわゆる半角カタカナは機種依存文字ではありません。

なお、キリル文字の中には全角アルファベットと字形がよく似たものもありますが、全く別の文字です。例えば、キリル文字の大文字のアを意味する“A”（JIS の 2721）は、全角アルファベットの大文字のエー——つまり“A”（JIS の 2341）——とは別の文字です。

2.1.3.5 その他の記号

その他に、JIS X 0208 で拡張された記号は総て使っても構いません。

表 5 その他の新 JIS 記号（JIS の 2272～2279, 227E）【○】

#	Å	‰	ℓ	♪	†	‡	¶	○
---	---	---	---	---	---	---	---	---

なお、表 1 に出てきた“○”（JIS の 213B）と、同じく表 1 に出てきた“○”（JIS の 217B）と、この表 5 に出てきた“○”（JIS の 227E）とはそれぞれ別の文字です。“○”（JIS の 213B）はゼロを表す漢字——例えば“五〇”の“〇”——を表し、“○”（JIS の 217B）は○×（マルバツ）記号のマルを表し、“○”（JIS の 227E）は丸付き文字、丸付き記号を作るための構成部品を表しています。

また、表 1 に出てきた“#”（JIS の 2174）と表 5 に出てきた“#”（JIS の 2272）とは別の文字です。“#”（JIS の 2174）はコンピュータ記号のシャープを表し、“#”（JIS の 2272）は音楽記号のシャープを表します。

2.1.3.6 機種依存の判定

実は表 2、表 3、表 4、表 5 で挙げた記号の中には古い機種では読めない記号もある¹⁾のですが、それは機種が悪いのです。もし“どの機種でも使える文字以外は総て機種依存文字だ”というふうに定義するならば、昔はひらがな・カタカナ・漢字は使えなかったのですから、そもそもひらがな・カタカナ・漢字は総て機種依存文字だということになってしまいます。つまり、そもそもメールでは日本語を使ってはならないということになってしまいます。

従って、ここでは、現在、妥当している JIS X 0208（新 JIS 規格）で定義された文字セットを表示することができないコンピュータのことは無視します。すなわち、JIS X 0208（新 JIS 規格）で定義されている文字セットであれば、どれを使っても構いません（但し、半角カタカナを除きます——後述）。

2.1.4 注意が必要な記号

2.1.4.1 数学記号

数学記号は使っても大丈夫なもの、使う時に注意しなければならないもの、使ってはならないものに分かります。使っても大丈夫なものの中で、表 1 に含まれているものについては、ここでは話を省きます。

Windows マシンをお使いの方は、以下の数学記号にはちょっと注意が必要です。

表 6 数学記号（JIS の 223A から 2241 まで、224A から 2250 まで、225C から 226A まで）

∈	∋	⊆	⊇	⊂	⊃	∪	∩
∧	∨	¬	⇒	⇔	∀	∃	
∠	⊥	∧	∂	∇	≡	≐	≪
≫	√	∞	∞	∴	∫	∫∫	

1) 古い機種では読めない新 JIS キャラクタセットという問題にはいろいろなものがありますが、代表的なものとして、ここでは旧 JIS キャラクタセットを取り挙げましょう。——いわゆる全角文字を扱うための仕組みとしては、1983 年に制定された JIS X 0208（新 JIS=JIS-1983）規格の前には、1978 年に制定された JIS 6226（旧 JIS=JIS-1978）規格がというものがありました。JIS X 0208 は JIS 6226 を包摂し、拡張しています。従って、JIS X 0208 に対応したコンピュータは JIS 6226 のキャラクタセットを扱うことができますが、JIS 6226 にしか対応していないコンピュータは JIS X 0208 のキャラクタセットの一部分（拡張部分）を扱うことができません。

2.1.4.2 使っても大丈夫な数学記号

表 6 の記号の中で、以下の記号は使っても構いません。

表 7 取り敢えず使って大丈夫な数学記号【○】

\in	\ni	\subseteq	\supseteq	\subset	\supset	\wedge
\vee	\neg	\Rightarrow	\Leftrightarrow	\forall	\exists	\frown
∂	∇	\ll	\gg	∞	∞	\iint

2.1.4.3 注意しなければならない数学記号

けれども、表 6 の中で、以下の記号には注意が必要です。

表 8 注意しなければならない数学記号【△】

\cup	\cap	\angle	\perp	\equiv
\doteq	$\sqrt{\quad}$	\therefore	\int	

非常にややこしいのですが、Windows 上では、表 8 の記号はコード表の二箇所に分けて定義されており、しかも片方（区点コードで 02 区にある記号）は JIS 定義に合致しており、もう片方（区点コードで 13 区にある記号）は機種依存になっているのです。

表 9 コードの違い

	使ってもいいコード		使ってはいけないコード	
	Shift-JIS	区点	Shift-JIS	区点
\cup	81BE	02-32	879C	13-92
\cap	81BF	02-33	879B	13-91
\angle	81DA	02-60	8797	13-87
\perp	81DB	02-61	8796	13-86
\equiv	81DF	02-65	8791	13-81
\doteq	81E0	02-66	8790	13-80
$\sqrt{\quad}$	81E3	02-69	8795	13-85
\therefore	81E6	02-72	879A	13-90
\int	81E7	02-73	8792	13-82

技術的なことが解らなければ、表 8 の記号は使わないようにしてください。

2.1.4.4 使ってはいけない数学記号

数学記号の中で以下の記号は使ってはいけません。

表 10 使ってはいけない数学記号【×】

$\$$	Σ	\perp	\triangle
------	----------	---------	-------------

なお、使ってはいけない数学記号の“ Σ ”（Shift-JIS の 8794，区点の 13-84）はギリシャ文字の“ Σ ”（Shift-JIS の 83B0，区点の 06-18）ではありません。数式の総和記号のシグマを使いたいときには、使ってはいけない数学記号の方ではなく、使ってもいいギリシャ文字の方を使いましょう。

2.1.5 使ってはいけない記号

Windows マシンをお使いの方は、以下の点にお気を付け下さい。

2.1.5.1 丸付き数字・文字

丸付き数字・文字は機種依存文字です。以下の文字を使ってはなりません。

表 11 丸付き数字・文字【×】

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳
Ⓐ	Ⓑ	Ⓒ	Ⓓ	Ⓔ					

丸付き数字を使いたいときには、例えば括弧+数字——(1), (2), (3)など——で代用しましょう。

2.1.5.2 ローマ数字

ローマ数字は機種依存文字です。以下の文字を使ってはなりません。

表 12 ローマ数字【×】

I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X
i	ii	iii	iv	v	vi	vii	viii	ix	x

なお、ローマ数字の中にはアルファベットに似ているものもありますが、それらはアルファベットとは別のコードに定義されています。例えば、ローマ数字の大文字の 1 を意味する “I” (Shift-JIS の 8754) は、全角のアルファベットの大文字のアイ——つまり “I” (Shift-JIS の 8268 または JIS の 2349) ——ではありません。同様に、ローマ数字の小文字の 5 を意味する “x” は全角のアルファベットの小文字のエックス——つまり “x” (Shift-JIS の 8298 または JIS の 2378) ——ではありません。

ローマ数字を使いたいときには、例えばアルファベットの組み合わせ——I, II, III, i, ii, iii——で代用しましょう。つまり、例えばローマ数字の大文字の 4 を表す “IV” (Shift-JIS の 8757) が使いたい場合には、半角アルファベットの大文字のアイ——つまり “I” ——と、半角アルファベットの大文字のブイ——つまり “V” ——とを組み合わせると (つまり “I” + “V” で)、“IV” で代用しましょう。

2.1.5.3 略記号

略記号の一部は機種依存文字です。以下の文字を使ってはなりません。

表 13 略記号 (の一部)【×】

mm	cm	km	mg	kg	cc	m ³	No.	KK	TEL						
ミリ	キロ	ギガ	ミリ	グラム	トン	アル	ヘクタール	リットル	フット	キロ	ドル	セント	パーセント	ミリ	ページ
(株)	(有)	(代)													
明	証	職	職												

これらはいずれも代替的な表記が可能なはずですが。例えば、略号 “mm” (Shift-JIS の 876F) は、半角アルファベットの “m” を二つ合わせた “mm” で代用しましょう。略号 “ミリ” (Shift-JIS の 875F) は、“ミ” と “リ” という二つの全角カタカナを合わせた “ミリ” で代用しましょう。略号 “(株)” (Shift-JIS の 878A) は、“株” という漢字を二つの全角 (半角でも構いませんが) 括弧 “()” で閉じた “(株)” で代用しましょう。略号 “明証” (Shift-JIS の 878D) は、“明” と “証” という二つの漢字を合わせた “明証” で代用しましょう。

2.1.5.4 数学記号

数学記号の一部は機種依存文字です。これについては、上記の「2.1.4 注意が必要な記号」をご覧ください

ださい。

2.1.5.5 その他

機種依存文字は、“機種”に応じていろいろなものがあります。この項目では、主に Windows マシンを想定して書きましたが、例えば Mac には Mac の機種依存文字があります。いずれにせよ、表 1, 表 2, 表 3, 表 4, 表 5, 表 7 で掲げられた文字は機種依存文字ではないので、これらを使うようにしてください。

2.2 半角カタカナ

コンピュータで使えるカタカナには、全角のカタカナと半角のカタカナとがあります（これは JIS で定義された文字です）。エディターなどで見ると、半角の文字は全角の文字の半分の幅しかありません。例えば“Ａ”は全角，“ア”は半角です。これはアルファベットの例ですが、同じことがカタカナについても妥当します。ディスプレイ上では、例えば、カタカナの“ア”は全角と半角とでは、—

全角文字では……ア

半角文字では……ア

のように異なって見えます²⁾。

詳しい説明は省きますが、メールに半角カタカナを用いると、文字化けする可能性が非常に高いのです。いや、それだけならまだいいのですが、いろいろと予想外の結果を引き起こすということが考えられるのです。以下のような半角カタカナは絶対に使わないでください。

表 14 半角カタカナ【絶対に×】

ア	ア	イ	イ	ウ	ウ	エ	エ	オ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ
サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	ッ	テ	ト	ナ	ニ	ヌ	ネ
ノ	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	マ	ミ	ム	メ	モ	ヤ	ャ	ユ	ユ
ヨ	ヨ	ワ	ヲ	ン	ラ	リ	ル	レ	ロ					
。	、	’	°	「	」	・	—							

3. 独立した発言とコメント

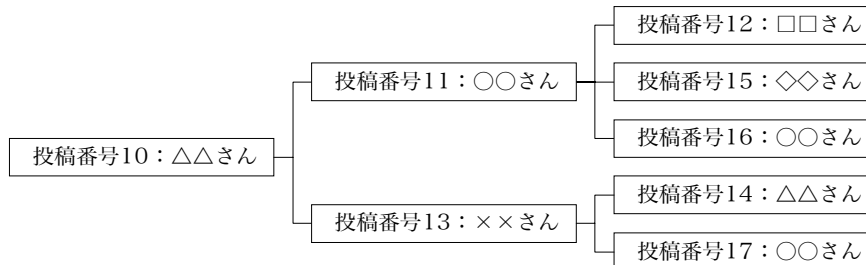
投稿する際には、便宜的に、独立した発言とコメントとを分けてください。例えば、〇〇さんが“海は広いな大きいな”という発言をしたと仮定します。これに対して、あなたが“いや〇〇さんはそうおっしゃるが、大宇宙に較べれば海は狭いし小さいのだ”という発言を投稿する場合には、それは〇〇さんの発言に対するコメントをなします。あなたのコメントに対しては、〇〇さんの投稿は元発言になります。元発言に対するコメントを投稿する際には、元発言の番号を明示してください。その書

- 1) ワープロソフトなどにおいて、ディスプレイ・プリンタに出力すると、いわゆる半角文字の幅はいわゆる全角文字の幅の半分であるとは限りません。と言うか、普通は、半角アルファベットの幅は全角アルファベットの幅の半分ではありません。また、メーラ・エディタにおいても、表示用のフォントをプロポーショナルフォントに指定してしまうと、“半角アルファベット”などという言い方は無意味になります。
- 2) 本当は、いわゆる半角カタカナといわゆる全角カタカナとの違いは見た目の違いではなく、文字コードの違いなのです。そこで、それらが定義されているコード領域をとって、半角カタカナは 1byte カタカナ、全角カタカナは 2byte カタカナと呼ぶ方が技術的に正しいのです。けれども、ここでは、メーラとかエディタとかでは見栄えが違うということに注目して、半角カタカナ、全角カタカナと呼ぶことにします。

式については、“ISM メーリングリスト規則”のページをご覧ください。

コメントは一連のリンクをなして続きます。一本の木からいくつもの枝が分かれ、その枝からまた別の枝が分かれるように、木のような構造をなして続きます。これをコメントツリーとかスレッドとかと呼びます。

図 1 コメントツリー



もし○○さんの投稿が△△さんの発言に対するコメントであったとすれば、○○さんの投稿はあなたの投稿に対しては元発言ですが、△△さんの投稿に対してはコメントです。これに対して、もし○○さんの投稿がだれの発言に対するコメントでないとすれば、○○さんの投稿は**独立した発言**になります。既存のコメントツリーでの議題に馴染まない発言、新たな議題を提出する発言をする時には、独立した発言を行ってください。

元発言（あるいは ISM メーリングリスト以外のドキュメント）を引用する際には、必ず引用したことを明記してください。引用したことを明記するためには、引用記号をお使いください。その書式については、“ISM メーリングリスト規則”のページをご覧ください。

4. メーラの返信機能

特定の個人宛の私信（親展信書）はこのメーリングリストに投稿しないようにしてください（つまり ism-topics あるいは ism-study 宛に送らないようにしてください）。Ism-topics あるいは ism-study 宛にメールを送ると、参加者全員に同一文面のメールが送信されてしまいますよね。そうすると、特定の個人宛に出した秘密のメールが参加者全員によって読まれてしまいます。

特に、メーラの“返信”機能を使っている方はご注意ください。大抵のメーラには“返信”機能というのがあります。これを使うと、確実に、宛先を間違わずに、こちらに着信したメールに返信を出すことができます。これは非常に便利であって、この機能を使うと、私のように ism-study と ism-topics とを間違えて投稿するなんていう間抜けな失敗がなくなります。

図 2 返信ボタン（Outlook Express の例）

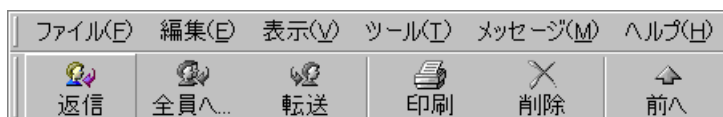
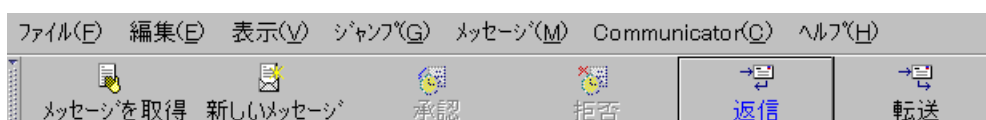


図 3 返信ボタン（Netscape Messenger の例）



けれども、特定の投稿者の投稿を読んでそれに答えるような気持ちでその人宛に秘密の私的メールを出す時には、メーラの“返信”機能を使うとメーリングリスト宛にメールが送られてしまい、その人宛の私信が参加者全員に読まれてしまいます。

特定の個人宛に秘密の私的メールを出したい時には、たとえそれがメーリングリストへの投稿に対する返信であっても、お手数ですが、メーラの“返信”機能は使わずに、その人宛にメールを送信するようにしてください。

もちろん、メーリングリストへの投稿に対してお返事を出したい時に、そのお返事がメーリングリスト内で公開されても構わない——あるいは公開されるべき——ものである場合には、メーラの“返信”機能を使っていただいて、一向に構いません。

-
- 1) 技術的な問題に詳しい方への注。もちろん、メーリングリストに投稿されたメールのインターネットメールヘッダの“From”フィールドには、投稿者のアドレスが記されています。けれども、メーリングリストサーバは投稿されたメールのインターネットメールヘッダに“Reply-To”フィールドを書き込むのです。もちろん、“Reply-To”フィールドで指定されたアドレスは当該メーリングリストのアドレスになります。そこで、メーラ——総てのメーラを調べたわけではありませんが——は“From”フィールドではなく、“Reply-To”フィールドを参照して、返信先のアドレスを指定するようになります。

これは妥当な仕様です。と言うのも、そもそも“Reply-To”フィールドは、“From”フィールドで指定されたアドレスとは別のアドレスに返信して欲しい時に書き込むべきものだからです。メーラに責任はありません。

けれども、メーリングリストの場合には、うっかりと“From”フィールドで指定されているアドレス（投稿者自身のアドレス）に返信してくれるだろうと期待してメーラの返信機能を利用すると、期待に反して、“Reply-To”フィールドで指定されているアドレス（メーリングリストのアドレス）に返信してしまうことになるわけです。